「読みたい」を繋げ、読書に親しみ続けようとする子の育成

～一人一台タブレットを利用した「私のおすすめの一冊」の紹介と
「マイブックリスト」の活用を通して～

１．主題設定の理由

いざ本を読もうと思っても、そういうときに限って読みたいと思う本が見つからない。せっかく興味のある本を見つけても、いつか読もうと思っているうちにタイトルを忘れてしまった。誰しもこんな経験があるのではないだろうか。本との出合いは一期一会。時に読み手の人格形成や職業選択にも影響を及ぼすことさえもある。しかし、出合った時にしっかりと掴んでおかないと、その出合いはいつの間にか雑多な日常の中に埋もれていってしまう。殊に読書の習慣化を考えるにあたり、本との出合いが読み手にどう印象づくかは大変重要である。本には、元々人を魅了する力が備わっている。きっかけをうまく与えることができれば、一度身に付いた読書習慣は、読書を続けることでさらに深く根付いていくに違いない。

以上のことから、生徒と本との出合いの場を設け、その出合いが一過性のものとなってしまわないような工夫ができないかと考えた。それによって、次の本、その次の本へと生徒の読書意欲を喚起することができれば、生徒たちにとって読書はさらに継続的な活動になるだろう。

本学級１年４組の生徒にアンケートを取ってみると、読書が好きだと答えた生徒は 31 名、嫌いだと答えた生徒は４名であった。小学校までの読書経験が、こんなに多くの本好きを生み出しているのだろうと感心した。しかし、家でも進んで本を読むと答えた生徒は 11 名、家ではあまり読まないと答えた生徒は 24 名だった。本が好きでも、実際に進んで読書する時間を確保できているわけではないようである。読書を習慣化するには、生徒の「本が好きだ」という気持ちを大切にしながら、朝の読書の時間のような落ち着いて読書できる時間を保障することも大切であると感じた。

また、生徒が読んでいる本に注目してみると、本格的なミステリー小説を読んでいる生徒もいれば、挿絵の多い児童書を読んでいる生徒もいた。中１になりたてで、落ち着きのある「中学生」と元気のある「小学生」を日によって行ったり来たりしている生徒たちは、読む本の種類やジャンルも過渡期にある。さまざまな種類の本に出合わせることで生徒たちの読書意欲をかき立てながら、読書の幅を広げていけるよういざなっていきたい。

本は、人の心を豊かにする。まるで宝探しのように本との出合いを楽しみ、自ら進んでたくさんの本を手に取り続けていってほしい。

２．めざす子供像

・「読みたい」という気持ちを高め、進んで本を読み続けていこうとする子

３．研究の仮説と手だて

仮説　特別活動の時間や普段の生活のなかで、読みたいと思う本を見つけ、本との出合いを意識づける工夫をすれば、主体的・継続的に読書意欲が高まっていくだろう。

●読みたいと思う本を見つけるための手だて

⇒手だて①：教師によるブックトーク

本との出合わせ方を工夫してブックトークを行うことで、生徒の本への興味を高める。生徒が興味をもった本を借りて読むことができるように、図書室にある本の中から選書する。

⇒手だて②：生徒による「私のおすすめの一冊」の紹介

単元終末に、スクールタクトを使って「私のおすすめの一冊」を学級に紹介する。プレゼンを聞いて、気になった本を手に取ったり、コメント機能で感想を交流したりして、読みたいと思う本を見つけるきっかけを作る。

●本との出合いを意識づけるための手だて

⇒手だて③：「マイブックリスト」の活用

これから読んでみたいと思った本を「マイブックリスト」に記録し、どんな本と出合ったか意識できるようにする。また簡単な感想を書く欄を設け、読後感や読んだ本についての評価を残せるようにする。

４．単元構想

学びの姿を見通すことができる課題	「読みたい！」を繋げる「マイブックリスト」を作ろう			
単元の目標	本に興味をもち、読書計画を立てることで主体的・継続的に読書しようとする。			
段階	時間	学習課題	主活動	本時の終末での生徒の考え
つかみ 見通す	①	図書室の使い方を知ろう	・本の借り方や本の並び（日本十進分類法）について学習する。	図書室にはいろんな本があるんだな。たくさん借りて読んでみたいな。
関わり深める	②	読んでみたいと思った本を見つけて、マイブックリストを充実させよう①	・ブックトーク 「いろんな友達」を聞く。	友達をテーマにした本を、もっとたくさん読んでみたいな。
	③	読んでみたいと思った本を見つけて、マイブックリストを充実させよう②	・ブックトーク 「こんなＨＥＲＯになりたい！」を聞く。	読みたい本がたくさんあるな。次は、このヒーローの本を読んでみようかな。
振り返りつなぐ	④	「私のおすすめの一冊」を紹介するための準備をしよう	・級友に紹介したい一冊を選び、スクールタクトで発表用フリップを作る	友達に選んだ本の魅力が伝わるようにプレゼンしたいな。
	⑤ ⑥	「私のおすすめの一冊」を紹介しよう	・スクールタクトで紹介したい本のプレゼンを行い、実際に本を手に取ったり、コメント機能で感想交流したりする。	読書紹介を聞いて、読んだことのない作者やジャンルの本も読みたくなったな。
単元の評価規準	①図書室の利用の仕方や図書の配列のきまりを理解し、必要な図書を探すための技能を身に付けている。【知識・技能】 ②これから読んでみたいと思う本を見つけ、「マイブックリスト」を活用して読書計画を立てることができる。【思考・表現・判断】 ③これから読んでみたいと思う本を進んで見つけ、「マイブックリスト」に書き留めることで継続的に読書に親しもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】			

５．実践と考察

（1）抽出生徒Ａについて

Ａは、物事に前向きで真面目に取り組もうとする生徒である。毎朝の読書の時間には落ち着いて読書している様子があるが、休み時間やちょっとした隙間時間などに読書をする姿はあまり見られない。先述の読書に関するクラスアンケートでは、読書は好きだが、家ではあまり本を読まないと答えた。読んでいる本を見ると、『ＤＩＶＥ！！』（森絵都、講談社）や『マスカレード・ホテル』（東野圭吾、集英社）など、文庫小説だがメディア化されて話題となったものが多い。たくさんの作者やジャンルの本に触れさせ、選書のきっかけを広げることで、夢中になって読書する姿が見られることを期待したい。

（２）仮説の検証

手だて①：教師によるブックトークについて

資料１　ブックトーク「いろんな友達」で紹介した本

ブックトーク「いろんな友達」

① 読み聞かせ『ともだちや』
（内田麟太郎・作、降矢なな・絵、偕成社）
② 読書紹介『なりたて中学生　初級編』
（ひこ・田中、講談社）
③ 読書紹介『バッテリー』
（あさのあつこ・作、佐藤真紀子・絵、教育画劇）
④ 読書紹介『きみの友だち』
（重松清、新潮文庫）
⑤ 読書紹介『夜のピクニック』
（恩田陸、新潮文庫）

生徒の読書の幅を広げるために、２回のブックトークを計画した。読み聞かせやあらすじ紹介、クイズ形式等、本との出合わせ方を工夫して行うことで、生徒の読書意欲がより高まるだろうと考えた。実際の授業では、コロナ禍のなか、十分に距離を取ってブックトークが聞けるように、プロジェクターを用いて本の表紙等を大きく提示しながら行った。ブックトークの後、多くの本を手に取れるように、場所は図書室を選んだ。また、読みたいと思った本を見つけたら、後述する「マイブックリスト」に追記しておくよう指示した。この時間内に読みきれなかったものや他の友達に借りられてしまった場合は、リストを頼りに後日休み時間に図書室へ借りに来るよう呼びかけた。

中学に入りたての１－４の生徒たちは、新しいクラスの友達に興味津々である。そこで、１回目のブックトークでは、「友達」をテーマにした物語を扱うことにした。（資料１）まずは小学校で手に取った生徒も多いであろう『ともだちや』（内田麟太郎・作、降矢なな・絵、偕成社）の読み聞かせから行った。生徒たちは、「懐かしい」とつぶやきながら、絵本の読み聞かせに聞き入っていた。生徒たちに一番人気があったのは、『きみの友だち』（重松清、新潮文庫）だ。短編集になっているため、長編に苦手意識をもっている生徒も興味をもちやすく、多くの子が「マイブックリスト」に題名を書き留めていた。

資料２　ブックトーク「こんなＨＥＲＯになりたい！」で紹介した本

２回目は、１－４の級訓「ＨＥＲＯ」にちなんで、「こんなＨＥＲＯになりたい！」というテーマでブックトークを組んだ。４月、級訓が決まった際に生徒一人一人が書いた「こんなＨＥＲＯになりたい」という掲示物を参考にして、ピックアップした生徒のＨＥＲＯ像に対するおすすめの本を選び、紹介した。（資料２）

まずはじめに、「みんなに頼りにされるＨＥＲＯになりたい」と書いた生徒に対して、『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（くさばよしみ・編、中川学・絵、汐文社）を紹介した。冒頭のコマ割りの挿絵を使って、「この人の職業は何でしょう。」と全体に問いかけた後に本のタイトルを示すことで、大統領がどんなスピーチをしたのか生徒の興味を引くようにした。

次の『星の旅人　伊能忠敬と伝説の怪魚』（小前亮、小峰書店）は、「どんなときでもあきらめずに最後までしっかりとやりきれるような人になりたい」という生徒へのおすすめの本だ。伊能忠敬についてクイズ形式で紹介し、物語だけでなく当時の忠敬の生活の様子などにも興味がもてるようにした。

「アンパンマンのようなみんなを元気に笑顔にできる人になりたい」という願いをもつ生徒には、伝記『勇気の花がひらくとき　やなせたかしとアンパンマンの物語』（梯久美子・文、フレーベル館）だ。この本は、やなせたかしの担当編集者でもあった梯氏の、平易だが読み手の心を打つ文章が大変魅力的である。そこで、やなせたかしの「アンパンマン」への思いや独自のヒーロー像について書かれている部分を読み聞かせて紹介した。

生徒Ａは、「みんなを笑顔にできる『ＨＥＲＯ』になりたい！！」という思いをもっていた。（資料３）小学校で友人関係に悩んでいたというＡは、一日の記録である「生活の記録」に、中学校生活への期待と不安をひんぱんに綴っていた。そんなＡをはじめ、周りの人を笑顔にできる存在でありたいと考えている生徒には、『県庁お

資料３　生徒Aの「こんなＨＥＲＯになりたい！」

もてなし課』（有川浩、角川文庫）を紹介したい。県民を笑顔にするために奮闘する登場人物たちの物語が、読者に元気を与えてくれる。ブックトークでは、本の裏表紙にあるあらすじを使うことで、簡潔に本の魅力を紹介することができた。

最後に、ヒーロー像の見方を少し変えて紹介した本が、『パパのしごとはわるものですシリーズ』（板橋雅弘・作、吉田尚令・絵、岩崎書店）である。このシリーズは、３冊の絵本だけでなくそれらを元にして書かれたノベライズ本がある。普段児童書を中心に読んでいる生徒が、長編小説へとチャレンジするのに適した本であると考えた。授業では、絵本を読み聞かせた後でノベライズ本の一部を読み聞かせ、続きが読みたくなるように工夫して紹介した。

ブックトーク後の自由読書の時間に、「図書室にあったＨＥＲＯの本をいろいろ集めてみました。この本もぜひどうぞ。」と、あらかじめワゴンに並べておいた本を提示した。すると、群がるように本を取りに来る生徒たちの姿があった。人に紹介されると、それまで見向きもしなかった本でも不思議と読んでみたくなる。本との出合いの機会をいかに生み出すかということが、その後の読書経験に大きく繋がるのだということを改めて実感した瞬間だった。

Aは、「この本、絶対に読みたいと思ってた！」と、『勇気の花がひらくとき　やなせたかしとアンパンマンの物語』を手に取り、早速貸し出し手続きを行った。教師の思いとは違う本を選んでいたが、「先生が読んでるのを聞いてるときから泣きそうだった。たぶん、読んだら泣いちゃうと思う。」と、うれしそうに本を抱えて図書室を後にしたAの姿がとても印象的であった。Aの「マイブックリスト」には、読後の感想が簡単に添えられていた。（資料４）本のおすすめ度は、星５つ、「人気になるまでのことに感動！！」とある。直接本人に感想を聞くと、「感動した。すごくいい本だった。」と答えが返ってきた。きっとAにとって、この本との出合いは忘れられないものとなったことだろう。

資料４　生徒Aの「マイブックリスト」より

		マスカレード・ホテル	東野圭吾	ヒ	★★★★★	2人の仲が深まる!
✓	5/20	勇気の花がひらくとき	柳久美子	726カ	★★★★★	人気になるまでのことに感動!!

手だて②：生徒による「私のおすすめの一冊」の紹介について

１学期末に、おすすめの本を紹介し合う機会を設けた。事前にそう知らせると、すでにどの本にしようか前向きに悩んでいる生徒たちの姿があった。

発表は、iPad のスクールタクトというソフトでデジタルフリップを作り、プレゼン形式で行うことにした。選んだ１冊を教師のブックトークのように紹介するイメージで、と伝えると、特に困った様子もなくフリップ作りに取り掛かることができた。

資料５　本の紹介のポイント

私のおすすめの本を紹介します①

①本の画像
(写真を撮るか、ネットからとってくる。)
②題名、作者、出版社
③本の内容やあらすじ
(ネタバレしないように注意する。)
④感想やおすすめポイント
(心に残ったところ、面白いと思った場面など。)

☆読んでみたいと思わせる工夫を！
　次の時間、発表。発表の後、投票あり。
☆シートは何枚になってもいいが、発表は1分ぐらいでできるようにする。

フリップを作る際のポイントとして資料５を提示したが、それ以外にも生徒たちは各々で聞き手に読みたいと思わせる工夫をして発表に臨んだ。例えば、話の展開をクイズ形式にして挙手を求めたり、登場人物や作者の経歴について話してから本を紹介したりする方法は、聞き手を惹きつけるのにとても効果的であった。あらすじの紹介の仕方に迷っている生徒には、「本の裏表紙などにあるあらすじを上手につかってごらん。」と声を掛けた。また、それをヒントにして、本の帯やそでにあるキャッチフレーズなどを活用する生徒もいた。どの発表からも、本に対する生徒自身の愛着が感じられ、みんなに読んでほしいという思いが伝わって来た。

Aは、『障がい児３兄弟物語　目がみえない　耳もきこえない　でもぼくは笑っている』（佐々木志穂美・著、YUME・絵、角川つばさ文庫）という本を紹介した。（資料６）普段、学校で読書している本とは違う、ノンフ

資料６　生徒Ａの発表用フリップより

資料７　生徒Ａ「私のおすすめの一冊」の発表より

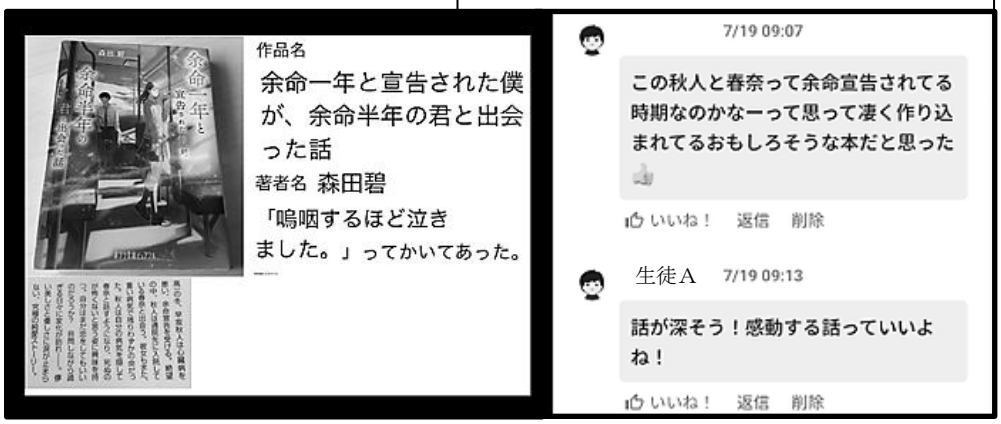
…（略）…お母さんの後書きとかも、障がいの子と付き合っていくって難しいんだけど、それを無理に仲良くしようとしなくてもいいし、できるところで仲良くしてくれればいいよみたいな。そういう、なんか障がいの子と付き合っていくなかでの、付き合い方みたいなのも分かるし、なかなか周りの子と違って理解されなくても頑張って生きている姿が描かれてて、すごい感動しました。

ィクションの本であった。資料７は、生徒Ａが発表の際に語った本の感想である。「なかなか周りの子と違って理解されなくても頑張って生きている姿が描かれてて、すごい感動しました。」という部分からは、Ａが本から得た一番の印象が分かる。ここでもＡは「感動」という言葉で本の感想を締めくくっているが、その理由は、障がいのある主人公が懸命に生きようとする姿やそれを支える家族の姿に心動かされたからである。感動した理由を明確にして話すＡの姿から、この本を読んでほしいと願う強い気持ちが伝わってくるようだった。

全員の発表が終わると、そこからは自由読書の時間とした。発表を聞いて読んでみたいと思った本を実際に手に取ったり、スクールタクトのコメント欄を利用して感想交流をするよう指示した。

Ａのページには、「私もこの本持ってるよ！前までお気に入りだった！」と、友達から共感のコメントが寄せられた。また、Ａ自身も気になった本の友達のフリップに感想を書きこんでいた。（資料８）「感動する話っていいよね！」と、自分の好きなジャンルであるこの本に興味をもつことができたようである。

資料８　友達のフリップにＡが書いたコメントより



スクールタクトを使って本の紹介フリップを作ることで、聞き手を惹きつけるための工夫が手軽にできるという発表自体のメリットだけでなく、フリップを保存しそれを見返すことで、友達のおすすめの本の中からいつでも自分が読みたい本を探すことができるという良さも生まれた。いわば、スクールタクトのフリップがそのまま「学級のおすすめの本ブックリスト」の役割を果たすのだ。また、コメント機能を活用することで、付箋などよりも相互に感想を交流させやすくなり、さらにその感想交流を読んだ他の誰かの読書意欲を刺激するはたらきがあると考えた。今回は自由読書の時間を十分に取ることができず、満足な検証には至らなかった。コメントも本を読む前の予想のコメントがほとんどで、読後の感想が少なかったために、どのフリップページからも感想交流による感想の深まりなどはほとんど見られなかった。今後継続してこの活動を行うなかで、よりよい活用の仕方について模索していきたい。

手だて③：「マイブックリスト」の活用について

「読みたい」と思う本と出合ったときに、そのタイトルを記録する。そんな「マイブックリスト」を充実させることは、今後の自分の読書計画を充実させることでもある。自分の興味・関心が沸いた本との出合いを大切にし、豊かな読書経験が継続的に積み重なっていってほしい。

資料９　「マイブックリスト」の書き方

読みたいと思う本が見つかったら、まず本の名前、作者名、ラベル番号を書く。（資料９の二重線枠内）ラベル番号については、次回図書室で本を借りるときにどの場所にあった本なのかが分かるようにするために書くようにする。そして、実際に本を読んだら、✔と日付、５段階のおすすめ度、感想などのメモを簡単に書くようにする。（資料９の太枠内）

資料１０　単元末アンケートより

② 「マイブックリスト」は、活用できましたか。

よくできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ 全くできなかった

③ ②と答えた理由を教えてください。

メモして、マイブックリストをもって本屋に買いにいけた。

資料１１　Ａの「マイブックリスト」

マイブックリスト　☆これから読みたいと思う本と読んだ本の感想を記録しておこう！

読んだら✔と日付を　読み終わったら、おすすめ度や感想などを残しておこう

✔	日付	本の名前	作者名	ラベル番号	おすすめ度	メモ（感想など）
	/	バッテリー	あさのあつこ	913 ア	☆☆☆☆☆	
	/	夜のピクニック	恩田陸	913 オ	☆☆☆☆☆	
✔	5/19	マスカレード・ホテル	東野圭吾	913 ヒ	☆☆☆☆☆	おもしろい！ 3人の伏線深まる！
✔	5/20	勇気の花がひらくとき	柳久美子	726 カ	☆☆☆☆☆	人気になるまでのことに感動!!
	/	小説の神様	相沢沙呼		☆☆☆☆☆	
✔	7/19	千月になれば彼女は	川村元気		☆☆☆☆☆	
✔	7/19	優しい死神は恋のためにうそをつく	望月くらげ		☆☆☆☆☆	
✔	7/16	もっと人生は楽しくなる	たぐち ひさと		☆☆☆☆☆	
	/	シグナル	伊坂幸太郎		☆☆☆☆☆	
	/	ちぐはぐな部品	星新一		☆☆☆☆☆	
	/	つらい時は「やってらんねぇ」って言えばいいだけ	水島昭善		☆☆☆☆☆	
	/	ライフ	くすのきしげのり		☆☆☆☆☆	
✔	7/12	夜に駆ける	YOASOBI		☆☆☆☆☆	
	/	余命1年とされた僕が余命3年の君と出会った話	森田碧		☆☆☆☆☆	
	/	その時までさようなら	山田悠介		☆☆☆☆☆	
	/	ぼくらの旭	宮田理		☆☆☆☆☆	
	/	飛ぶための1歩	ジェーンパスコー		☆☆☆☆☆	

Ａは、単元末の読書アンケートで、「マイブックリスト」を「よく活用できた」と答えた。その理由は、「メモして、マイブックリストをもって本屋に買いにいけた」からである。（資料１０）Ａの「マイブックリスト」を見てみると、たくさんの本がこれから読みたい本として記録されている。（資料１１）リストに書かれているのは、全部で１７冊。そのうち、読んだチェックが入っているものは、６冊。残り１１冊は、これからどの順に読んでいこうか考えながら、楽しく読んでいくのだろう。また、資料１１の二重線部から下に書かれている本は、友達が発表した「私のおすすめの一冊」がほとんどである。授業以外で読みたいと思う本を見つけてリストに追記することはできていないようだが、発表を聞いて気になる本をたくさん見つけることができたのが分かる。

６．成果と課題

【手だて①】教師によるブックトークについて

○…生徒たちが図書室の本を用いて選書することで、図書室で本を借りたいと思う生徒が多くいた。

△…ブックトーク後の自由読書の時間について、「今日はこのテーマの本を読もう」など、読む本に条件をつけても良かった。そうすれば、「読みたい本は、テーマを絞って探せばいい。」や、「もっとこの作者の本が読みたい。」など、選書の方法への気づきに繋がっただろう。

【手だて②】生徒による「私のおすすめの一冊」の紹介について

○…事後のアンケートから、ほぼ全員の生徒がこの活動によって読みたいと思う本に出合えたと答えた。なかには５冊以上読みたいと思う本が見つかり、実際に夏休みに読むのが楽しみだという生徒もいた。スクールタクトを使用することで、手軽に聞き手に読みたいと思わせるための工夫を考えることができた。

△…実際に手に取って本を読む時間やコメントを書き込む時間が満足に取れず、感想交流が不十分だった。読後の感想交流は、次の読書への意欲にも繋がっていくと考えている。２学期以降も継続して本を紹介し合い、感想を交流する機会を作っていきたい。

【手だて③】「マイブックリスト」の活用について

○…読みたいと思う本をリストにして可視化することで、継続的に目標をもって読書する生徒の姿が見られた。

△…リストを大いに活用していた生徒がいた反面、授業以外で活用することができなかったという生徒も多くいた。書くのが手間になる、書き留めておこうという意識に個人差があるということが課題として残った。

⑤ １学期の図書の授業の感想や、今までの自分の読書の様子を振り返って感じたこと・これからの自分の読書について考えたことなどを書いてください。

本を読むのが好きではなかったけれど好きになりました。また、本屋に自分から行くことが増えました。今月で5冊買ってしまったぐらい興味をもつことができました。とってもいい時間になりました。

資料１２　Ａの単元末のアンケート

資料１２のＡの単元末アンケートには、「本屋に自分から行くことが増えた」、「今月で５冊買ってしまったぐらい興味をもつことができ」たと答えている。読みたい本が見つかれば、読もうとする気持ちは加速する。今後とも、読書意欲を向上させるのに有効な手だてを考えていきたい。